
恋がおわるまでの365にち

萌愛春まによ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋がおわるまでの365にち

【Nコード】

N5343BA

【作者名】

萌愛春まによ

【あらすじ】

愛が恋をしたのは塾の先生でした。

愛の先生にたいする恋。

でもそれは許されない。

なぜなら

先生と生徒だから……

愛の切ない恋の物語をごらんください。

恋

わたしは恋愛に年の差なんて関係ないと思う

大切なのは気持ちだと思う

しょうがないじゃない

好きになってしまったのだから

ずっとずっとあたしより年上で

すっごく頭がよくて

かっこよくて面白くて……

いい人だなんて思ってた

同年だったらどうなってただろう？て考えたときもあった

でも

むっかついたときもあったかな

だろう

でも

恋するなんて思ってたかった

気づいたら

恋に落ちてた

そんなのありえない

思っ たよ

別に特別仲が良かったわけじゃない

いっぱいはんしをしてたわけじゃない

だけどさ

好きになっちゃったんだもん

しょうがないじゃん

ね？

先生

夏

はるみ
春海
あい
愛

中学校3年生。受験生。

あたしが先生に会ったのは暑い暑い夏の日だった。

今年受験生であるから

親から塾に行かせるとのこと。

ただでさえ勉強が嫌いなのに

塾に行ったらもっと勉強が嫌いになると思っていた。

案の定。

大っきらいになった。

あたしは特別つめたい人間ではない。

逆にいうとすつこくうるさいほう。

でも初対面の人にはやっぱり距離をおいてしまう。

あのとときもそうだった。

初めて塾の校舎に足をふみいれたとき2人の先生がいた。

「こんにちはー。初めてなんですけど」

1人の先生に声をかけた。

中年の先生。いかにも頭がよさそう。

「こんにちは。木村です。この部屋に入って」

順序よく案内される。

幸いにも中学3年生はあたし一人だけだったらしく

広い部屋でその先生とマンツーマンで勉強。

案外分かりやすかったし

結構覚えることもできた。

一人で休憩していると

塾の入口で会ったもう一人の先生が来た。

「くま好きなの？」

確かにくまは好き。

文房具もくまで統一してるほど。

でも初対面でからんでくる人は嫌い。

いちいちいい顔するのがめんどくさいから。

「あー・・・はい」

作り笑いをうかべた。

その先生はすぐ別の教室に行った。

気分を悪くさせてしまったのかな？

でもあたしには関係ない。

そういえば・・・。

あの先生。

とてもきれいな顔をしてたなー。

かわいいよりもかつこいい。

イケメンだった。

メガネがよく似合う若い先生だった。

名前を聞いておけばよかったと思ってる。

これは後悔なのか？

いや。ただの慣れ合いか？

今日はお試しだから

ここに来るのは今日が最初で最後。

そう思っていた。

そう思っていたのに。

これが川村先生との初めて出会いだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5343ba/>

恋がおわるまでの365にち

2012年1月14日20時50分発行